

関係各位

京都府病虫害防除所長
(公 印 省 略)

病虫害発生予察情報について

下記のとおり発表しましたので、送付します。



発生予察特殊報第 4 号

病 害 虫 名 キュウリ黄化えそ病
病原ウイルス名 : melon yellow spot virus : MYSV
作 物 名 キュウリ
発 生 地 域 京都府南部

1 発生経過

令和 6 年 6 月、京都府南部の露地キュウリほ場において、葉に黄化症状を示す株が認められた（写真 1）。京都府生物資源研究センターにおいて RT-PCR 法による検定及び RT-PCR の増幅産物の塩基配列解析から、melon yellow spot virus : MYSV の感染を確認した。本ウイルスの発生は国内では 1992 年に静岡県のカボチャで確認された以後、全国的に確認されている。なお、同試料からウリ類退緑黄化ウイルス(cucurbit chlorotic yellows virus : CCYV)の感染も確認している。

2 病徴

本病の病徴は、発生初期には、生長点付近の展開葉に葉脈の透過を生じ、後に展開葉においてモザイク、えそ斑点、黄化等の症状が生じる（写真 2、3）。果実では、表面にモザイク斑紋や奇形が生じることがある。さらに症状が進展すると株全体に黄化が進んで草勢が低下し（写真 4）、育苗期に発病した場合は最大で 30%減収するとされている。

3 病原ウイルスの特徴

- 病原はオルソトスポ属のウイルスで、ミナミキイロアザミウマにより媒介される。他のアザミウマ類の媒介については不明である。
- ウイルスに感染した植物を吸汁したミナミキイロアザミウマの幼虫はウイルス媒介能を永続的に保持する。しかし、成虫になってから感染株を吸汁しても媒介能は持たない。なお、経卵、種子及び土壌伝染はしないとされ、また、汁液伝染での感染力は低いため管理

作業で伝染する可能性は低いとされている。

- (3) 本ウイルスは、キュウリ、メロンおよびスイカ等のウリ科で自然感染し、雑草ではナズナ、ミミナグサ、カタバミ、ハコベ、ホトケノザ等で保毒を確認した報告がある等、広範囲な植物に感染することが確認されている。

4 防除対策

- (1) 発病株は直ちに抜き取り、ポリ袋等に密閉してほ場外に持ち出し適切に処分する。
- (2) 媒介虫であるミナミキイロアザミウマに対する以下の防除を徹底する。
- ① 苗に寄生していない事を確認して、ほ場に定植する。
 - ② 施設の開口部に 0.4mm 目以下の防虫ネットを展張し、侵入を防ぐ。
 - ③ 近紫外線カットフィルムを使用する。
 - ④ 施設では、青色ないしは黄色粘着ロールや粘着板を活用する。
 - ⑤ 施設内及び周辺の雑草は発生源となるので、徹底して除去する。
 - ⑥ 周辺に分散させないため、栽培終了後に全株を地際から切断または抜根し、施設を密閉して死滅させる。
 - ⑦ 薬剤感受性低下を防ぐため、同一グループの薬剤の連用を避ける。

<参考文献>

- (1) 病害虫発生予察特殊報第 2 号、キュウリ黄化えそ病、大阪府環境農林水産部農政室(2020 年 10 月)
- (2) 令和元年度病害虫発生予察特殊報第 1 号、キュウリ黄化えそ病、東京都病害虫防除所(2019 年 12 月)
- (3) こうち農業ネット(高知県農業情報サイト)「きゅうり黄化えそ病」、高知県(2024 年 2 月)
<https://www.nogyo.tosa.pref.kochi.lg.jp/info/dtl.php?ID=3665>



写真1 黄化症状を示す葉
(CCYV との混合感染株)



写真2^{注)} 生長点付近のモザイク症状



写真3^{注)} 葉のえそ症状；
葉脈間にえそ斑点が発生し(上)、
後に葉全体が黄化する(下)。



写真4^{注)} 病勢が進行した株；
葉が黄化し、株全体が黄化する。

注)写真2～4は「こうち農業ネット(高知県農業情報サイト)」⁽³⁾より引用